

# コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2021年10月10日

BMJニュース: 軍事政権と新型コロナに立ち向かうミャンマーの医師

## 【松崎雑感】

BMJによるミャンマーの現状レポートです。民主的政府を軍事クーデタ出だ  
というしたという問題もさることながら、中国とインドという世界の人口の3分  
の1に接する国で、新型コロナがしっかり押さえられないことが、凶悪な変異  
株を生み出しやすい状態にあることも大きな問題です。「ビルマ株(仮想)」  
が経済的交流の多い中国やインドに広がる恐れです。日本の政府や企業  
の経済援助がビルマの軍事政権を後押ししている問題も同時に解決する  
必要があると思います。

## 軍事政権と新型コロナに立ち向かうミャンマーの医師

Krishna G; freelance journalist,, Howard S; freelance journalist. Myanmar doctors are under fire from the military and covid-19. BMJ. 2021 Oct 8;375:n2409. doi: 10.1136/bmj.n2409. PMID: 34625451.

*軍事政権と新型コロナパンデミックに攻撃を受けているミャンマーの医師の現状をフリージャーナリストのジータンジャリ・クリシュナとサリー・ハワードがレポート*

2021年2月1日の軍事クーデタ以降、国軍はヘルスケア専門家に血なまぐさい弾圧を加えている。

3月28日、モニーワで軍事政権の独裁に反対するストライキに参加した看護師が銃によって殺された。4月21日、カチン州バモの二つの民間病院が診療免許を停止された。ミャンマー国軍は、軍政への市民的不服従運動に協力したヘルスケアワーカーを雇用している医療機関の免許を取り上げ、そのようなヘルスケアワーカーを訴追すると言明している。

5月8日、カチン州北部で、国軍の基地を通りかかった一人の医師が逮捕され銃殺された。6月には、サガインの二つの新型コロナ治療センターが砲撃によって破壊された。

この60年間に3度目の軍事クーデタが起こされたミャンマーはヘルスケアワーカーにとって世界で最も危険な国となった。

WHOは把握できた限りでは、世界で起きた508名の犠牲のうち240名がミャンマーで起きていると発表している。

7月に、イギリスの援助組織USAIDとManchester University's Researching the Impact of Attacks on Healthcare(マンチェスター大学ヘルスケア攻撃被害調査)が公表した報告書では、190名のヘルスケアワーカーが逮捕され、25名のヘルスケアワーカーが殺害され、2月から7月までに55件の病院に対する攻撃が行われたという[1]。

ミャンマー問題に関する国連特別報告者のトマス・アンドリュース氏は、軍事政権がこのような暴力的な報復を行うのは、医療関係者が軍政に対する不服従運動の中核となっていると認識しているためであるとして、「言うまでもなく医師こそが、この国で起きた事態により人々にもたらした悲劇を直接目撃し、それを深く憂慮する立場にある。しかし、医療関係者だけの力によって抵抗運動が大きく広がったと解釈するのは極めて乱暴だ」と本誌に述べた。

世界医師会も、抵抗運動参加者を治療した医師を逮捕し迫害する国軍の行為を弾劾している[2]。

国軍は、メディカルワーカーに対する攻撃を否定して、医療者がジェノサイドのために診療を拒否していると非難した。

4月9日に、国営テレビの生番組で、国軍スポークスマン、ザウ・ミン・トゥン少将は、「(患者を診ない医師は)患者を冷酷に殺している。これをジェノサイドと言わずして、なんというのか？」と発言した。

皮肉なことに、国軍のこのような言い分が医療関係者を市民的不服従運動に駆り立てている。22歳で医学部4年のラミン・マウンマウン氏は学業を中止して抵抗運動に飛び込んだ。

「先輩の医師も教授たちは、医療サボタージュの廉で投獄され虐殺されることを怖れて、雲隠れしている」と彼は本誌に答えた。

国境なき医師団のミャンマー担当医学コーディネータ、ミッチェル・サンマ氏は、「彼のように迫害に対してストライキでたたかっている人々もいるが、報復の危険にさらされながら、多くの医師は自発的に地域でプライマリケア医療に従事している。助産師はマターなるケアを続けている」と述べている。

## 新型コロナが半壊した医療システムにおそいかかる

国軍の弾圧が、すでに崩壊に瀕していたヘルスケアシステムを襲っている。クーデタ前の2018年に国民1万人あたりの医師数は0.67人だった(世界銀行の調査では世界平均15.6人/1万人)。

クーデタがもたらした政治的混乱のために、100万人の子どもが必要なワクチン接種を受けていない。

国境なき医師団は、本誌に、ミャンマーのヘルスケアシステムを利用できないHIV患者4000人に抗ウイルス薬を届けていると語った。

国軍と亡命中の前政府の軍事組織、人民防衛軍および地域の民兵との戦闘が続くため、23万人の住民が移動を余儀なくされた国境地帯の子どもたちのワクチン接種は極めて困難となっている。

この混乱状況に、デルタ変異株による新型コロナパンデミックがミャンマーを襲っている。

信頼できるデータ入手は難しいが、ジョンズホプキンス大学は8月23日現在、毎日2698名が新規感染者となっていると報告[3]。

4月に、23歳の活動家アウグスト・カント氏（仮名）は新型コロナ検査で陽性となったが、逮捕のおそれがあるため公的医療機関受診ができなかった。

民間病院受診も同様に困難だった。彼はTwで「新型コロナと戦っている医師、看護師などのヘルスケアワーカーは犯罪者とみなされる。薬局で高額の高額薬を買わなければならない。しかも長い行列に並んで」と本誌に語った。

カント氏は、行列に並んだ人々が酸素不足で死亡した人がいるという話を聞いた。「もし自分が酸素の必要な病状になったなら、（国境なき医師団のような）慈善団体にすがるほかないが、それが国軍に見つかったなら暴行を受けるだろう」と語った。

7月に、国軍のリーダー、ミン・アウン・フライン大將は、酸素供給プラントを最大限に稼働させ、工業用酸素を民生用に転換するよう命令を出した。

受刑者が刑務所にあふれていることも健康危機を悪化させている。

7月に失脚したアウン・サン・スー・チー氏のスポークスマン、ニャン・ウィン氏は首都ヤンゴンの刑務所で新型コロナ感染により死亡した。クーデタ後およそ6千名が拘留された[4]。

拘留中の医療関係者(匿名)からの情報では、刑務所にはマスクなしで、基本的な感染防止策がないまま極めて多くの人々が監獄に詰め込まれており、発熱などのコロナ症状が蔓延しているという。

ミャンマーに96ある刑務所と矯正キャンプのうち新型コロナに対応できる設備を持っているのはインsein刑務所だけだという。

亡命中の旧政権組織、国民統一政府(NUGミャンマー)は、刑務所における新型コロナアウトブレイクにあたり、直ちにすべての政治囚を解放するよう要求している。

オクスフォード大学のアワ・ワールド・データによれば、5月に1.1%だった検査陽性率は現在25.6%に増加している[6]。

感染者死亡率は2月の2%から8月の4%に増加している。現在までに1万5287名がミャンマーで死亡したとされ、3分の2は激的な第2波で発生している。

さらに、人々は国軍によるワクチン接種プログラムを信用していない。ミャンマーのワクチン接種プログラムを率いてきたフタール・フタール・リン医師は6月に国家反逆罪の廉で逮捕された。

医師と市民の多くは、国軍の運営する病院でのワクチン接種を避けている。逮捕されるおそれがあることと、ワクチンだと言って何を注射されるかわからないためである[7]。

亡命中の前政権保健相ザウ・ワイ・ソエ氏は、本誌に、ワクチン接種拒否は軍政に対する市民の不服従を示し、投獄中のスー・チー氏の解放を求める態度表明であると語った。

NUGミャンマーは、国民の40%2500万人が、第3波で感染するおそれがあると懸念している。「このままでは40～80万人が新型コロナで死亡するだろう」と前政権の保健相は語った。

## 脆弱なヘルスケアシステムが崩壊する

7月21日、NUGミャンマーは、「ミャンマー国内の新型コロナパンデミックの防止、緩和、対策を行うために」少数民族の独立的保健団体と共同で、新型コロナ対策作業委員会を設立した。

NUGミャンマーは600万人分のワクチンを確保して、二つのワクチン接種プログラムを開始するとの声明を出した。



一つは、少数民族の民兵組織による接種活動、もう一つは、国連や国連児童基金などの第三者機関による接種活動である。

ザウ・ワイ・ソエ氏は、(国軍が支配している)州や郡単位でなく、集落単位の活動によって、前政権組織と人道団体の活動により、今年中に成人の20%にワクチン接種を実施できると語った。

国境なき医師団のミッチェル・サンマ氏は、大都市に比べて、国軍の目の届きにくい集落ベースのワクチン接種活動は成功するだろうと考えている。

崩壊したヘルスケアシステムを補完するため、遠隔医療プログラムも始められている。ネットを使った5件の遠隔医療チャンネルが立ち上げられ、地域から離散した多くの医師が参加して毎日5千件の新型コロナ治療などの健康相談に対応している。

しかし、最近1件のチャンネルが国軍によって破壊された。市民的不服従運動を行っているボランティアの医学生達は、慈善団体や国際援助機関と連携して新型コロナ患者への酸素供給に携わっている。

9月にジュネーブの国連人権委員会でミャンマーの状況を報告したトマス・アンドリュース氏は、ミャンマーのワクチン接種率が極めて低く、新型コロナに対応できる医療機関がほとんどないことを指摘し、国際社会の積極的介入がなければ、この国が新型コロナウイルスのスーパープレッダーとなる恐れがあると述べた[8]。

「ヘルスケア施設への攻撃、高い検査陽性率、世界の人口の3分の1がミャンマーと国境を接している周辺国に住んでいること、それらにより、危険な変異株が発生し、ミャンマーからそれらの国に蔓延するおそれがある」と彼は警告した。

### 【ミャンマーの医師の証言】

2021年2月の軍事クーデタ後、ヤンゴンの民間病院の医師パ・ヤウン氏（仮名）は軍政に対するWhite Coat Protest（白衣の抗議運動）に参加した。

医療従事者の抗議行動に対して、国軍は催涙ガスやゴム弾を発射して解散を強制した。「われわれは平和的抗議行動を行っていたのに、国軍は警告なしに攻撃してきた。攻撃で負傷した仲間の声が耳から離れない」と彼は語る。

ヤウン氏は、かろうじて修道院に逃げ込めた。それ以来、彼は数多くの攻撃に見舞われている。

「国軍はわれわれの病院を襲撃して、メスなどの外科用器具と自家発電用の石油を強奪した。翌日、国軍側の新聞は、われわれの病院が武器と火炎瓶を隠していたと報道した。さらに、国軍は、深夜に病院に押しかけて患者のカルテを見せるよう迫った」と彼は回想する。

この2, 3か月、ヤウン氏は国軍が作った国家行政評議会が、全国的な市民的不服従運動を指導しているクリニックや病院の医師を逮捕する場面に遭遇したという。

ヤウン氏はヤンゴンで、国軍の兵士に尋問されて、今はコロナパンデミックだと答えただけで逮捕された医師がいたと語った。

ヤウン氏の家族は、毎朝彼が出勤するたびに、もう二度と会えないのではないかと心配しているという。家族は彼に、もう医師としての仕事をやめてほしいと望んでいるという。

「でも私はやらなければならないことを続ける」と彼は述べた。「軍は、私たちの仲間を脅迫、投獄、殺害してきた。私は彼らのかわりにたたかわなければならない」